

【スキルアップ研修シリーズの案内】

研修シリーズは4回にわたって、認知行動療法・応用行動分析学の考え方や技法を日常の臨床や現場での実践に活用していただけるよう、専門用語や理論も一から優しい言葉で解説します。また、具体的な事例の紹介やワークを通して実践のイメージをもっといただけるよう工夫しています。第1弾は小中学校や幼稚園、こども園等で問題行動の改善や予防を目的とした「ポジティブ行動支援」を導入・実践されている大対香奈子先生（近畿大学）、第2弾はメンタルヘルス不調を抱える就労者の支援を行っている本岡寛子先生（近畿大学）、第3弾は発達障害や不安障害等を抱えた就学前の子どもから青年期、成人期の方々への行動療育や行動療法をされている藤田昌也先生（みどりトータル・ヘルス研究所こども行動療育教室）、第4弾は特別な教育的ニーズのある子どもたちのアセスメント方法や指導モデルを開発し「できることを伸ばす支援」を行っておられる野田航先生（大阪教育大学）です。

ワークショップを通して、様々な領域や職種の方とも交流していただき、連携や協働のネットワークづくりにもお役立ていただけると幸いです。

第1回 2020年5月24日（日） 13:00-16:00

『今日から使えるポジティブ行動支援』

講師：大対香奈子（近畿大学総合社会学部 准教授 / みどりトータル・ヘルス研究所）

対象：学校の教員、福祉施設職員、心理師／士、大学院生等

第2回 2020年9月27日（日） 13:00-16:00

『働く人ひとりひとりに適したストレスマネジメント法の導き方』

講師：本岡寛子（近畿大学総合社会学部 准教授 / みどりトータル・ヘルス研究所）

対象：企業の産業保健スタッフ（産業医、看護師、保健師、心理師など）、人事課や総務課の精神衛生安全管理担当者、医療機関や相談機関で産業衛生管理に従事されている方、産業衛生管理に関心のある学生等

第3回 2020年11月15日（日） 13:00-16:00

『実践に活かす強迫性障害への認知行動療法』

講師：藤田昌也（みどりトータル・ヘルス研究所）

対象：初級・中級の心理師／心理士、大学院生（強迫性障害へのカウンセリング経験のある方が望ましい）

第4回 2021年3月14日（日） 13:00-16:00

『学習指導に活かす応用行動分析学』

講師：野田航（大阪教育大学教育学部初等教育講座 准教授 / みどりトータル・ヘルス研究所）

対象：学校の教員、福祉施設職員、心理師／士、大学院生等

参加費 各 7,000 円（4回全て参加される場合は 25,000 円）

2回目以降のWSの申し込みも開始しております。定員に達し次第申し込みの受付を終了致します。みどりトータル・ヘルス研究所ホームページでご確認下さい。

第1回 今日から使える「ポジティブ行動支援」

概要：家庭での子どものしつけや学校での児童生徒への指導、また夫婦関係などにおいても、私たちはつい、相手のできていないことや不適切な行動の方に注目し、注意をしたり叱ったり、また文句を言ったりという対応になりがちです。このような、問題が起こってからの事後対応は効果的ではないだけでなく、関係性や精神衛生にも悪影響が及びます。最近では、より望ましい行動・適切な行動に注目し、そのような行動を促し、励まし、認めるアプローチである「ポジティブ行動支援（Positive Behavior Support: PBS）」が推奨されています。本ワークショップでは、PBS についての理論的背景についてわかりやすく解説し、家庭で、学校で、職場で、今日から使える PBS の実践について参加者の皆さんと一緒に考え、計画を立ててみます。ぜひ持ち帰って実践をしてみてください。

第2回 働く人ひとりひとりに適したストレスマネジメント法の導き方

概要：近年、事業場におけるセルフケア研修・ラインケア研修として「ストレスマネジメント」の教育が盛んにおこなわれています。しかし、ストレスの原因や個々に役立つストレスマネジメント法は異なるため、画一的なストレスマネジメント方法の知識を得るだけでは実際のストレス緩和に繋がらないことも多くあります。本ワークショップでは、認知行動療法の一技法である『問題解決療法（Problem Solving Therapy）』の枠組みを理解し、明日から実践の場で使って頂けるよう、ワークシートに記入しながら問題を整理し、ひとりひとりに適したストレスマネジメント法を導く方法を紹介します。

第3回 実践に活かす強迫性障害への認知行動療法

概要：日々の臨床活動では、多様な症状の強迫性障害に関するご相談を受けることが少なくありません。多くの場合、仕事や学校といった日々の生活と折り合いをつけながら、強迫性障害の改善を目指していくこととなります。カウンセリングでは週一回や隔週での取り組みにより、クライアントやご家族に希望を持ってもらい、効果を上げていかなければなりません。本ワークショップでは、学齢期から成人期の強迫性障害のクライアントに対して、週一回程度のカウンセリングを想定した認知行動療法の基本的なアプローチを学んでいただきます。特に、心理教育、不安階層表、系統的脱感作法、暴露反応妨害法を中心に効果的なカウンセリングを行うための方法を紹介します。

第4回 学習指導に活かす応用行動分析学

概要：応用行動分析学は、様々な行動問題の解決に利用されていますが、読み書き計算のような基礎的な学業スキルの指導にもその考え方を活かすことができます。子どもたちの行動問題の背景には、「勉強が分からない」ことが大きく影響していることも少なくありません。「勉強が分からない」のに授業参加を促進する（例：「話を聞こう」と声をかけて褒める）働きかけ“だけ”では、問題が解決しないことも多いのです。本ワークショップでは、“学習の問題”を具体的な行動と環境との相互作用の観点から捉え、どのように学習問題を捉え、アセスメントし、指導計画を立てるのかについて、演習を通して学んでいきます。特に読み書き計算等の基礎的な学業スキルに焦点をあて、上手に教えるコツをお伝えします。